

COPD-PS (COPD Population Screener™) を用いた COPD潜在患者のスクリーニング

COPD-PSとは

COPD-PS (COPD Population Screener™) は、広く一般の人を対象として、COPDの可能性があるかどうかを調べられる質問票です。設問数が5問と少ないため、簡単に自己採点ができます。

結果の解釈

合計スコアが高いほどCOPDの可能性が高くなります。COPD-PSの合計スコアは、COPDの診断基準であるスパイロメーターによる気流閉塞の有無(気管支拡張薬吸入後の1秒率が70%未満かどうか)を判別できることが検証*されています。

日本人の場合、4点以上であればCOPDの可能性があると考えられます。

* Martinez, F. J. et al.: COPD 5(2): 85, 2008 [L20080513040]

いままでの質問票との違い

IPAG (International Primary Care Airways Group) とは異なり、一般集団においてCOPDの可能性のある人を特定できます。

また、設問数が5問と少なく、簡単に答えられ、スコア算出も容易(0~10点)です。

	COPD-PS	IPAG
質問数	5問	8問
アンケートの対象	一般集団	喫煙経験がある40歳以上の成人
総スコア範囲	0~10点	0~38点

COPDは長い年月をかけてゆっくり進行する病気で、初期には症状が自覚されず、医師に相談されることもあまり多くありません。しかしCOPDは、重症になると体を動かしたときの息切れがひどく、急激に症状が悪化する増悪を起こしやすいなど、健康状態や日常生活の質を著しく損なう病気です。早期に発見して治療を開始することが大切ですので、主治医に呼吸器症状を訴える前からこの質問票を使ってCOPDの可能性のある人を見つけ、早期に対応する必要があります。

先生方の日常診療で、COPDの早期発見、治療のためのスクリーニングツールとして、外来受診の患者さんに広くご活用ください。少しでも多くのCOPD患者さんが診断されることを期待しています。

監修 東北大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学 教授 一ノ瀬 正和 先生

【COPD-PSシート記入例】

COPD 集団スクリーニング質問票 (COPD-PS™)

この質問票は、ご自身、ご自身の呼吸、またご自身ができることについてお伺いするものです。記入にあたり、以下の質問に対し、ご自身に最もあてはまる回答のボックス (□) に☒をつけてください。

1. 過去4週間に、どのくらい頻繁に息切れを感じましたか？

まったく 感じなかった	数回感じた	ときどき感じた	ほとんど いつも感じた	ずっと感じた
▼ □ ₀	▼ □ ₀	▼ □ ₁	▼ ☒ ₂	▼ □ ₂

2. 咳をしたとき、粘液や痰などが出たことが、これまでにありますか？

一度もない	たまに風邪や 肺の感染症に かかったときだけ	1か月のうち 数日	週間のうち、 ほとんど毎日	毎日
▼ □ ₀	▼ □ ₀	▼ □ ₁	▼ ☒ ₁	▼ □ ₂

3. 過去12か月のご自身に最もあてはまる回答を選んでください。
呼吸に問題があるため、以前に比べて活動しなくなった。

まったく そう思わない	そう思わない	何ともいえない	そう思う	とてもそう思う
▼ □ ₀	▼ □ ₀	▼ □ ₀	▼ ☒ ₁	▼ □ ₂

4. これまでの人生で、たばこを少なくとも100本は吸いましたか？

いいえ	はい	わからない
▼ □ ₀	▼ ☒ ₁	▼ □ ₀

5. 年齢はおいくつですか？

35~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
▼ □ ₀	▼ □ ₁	▼ ☒ ₂	▼ □ ₂

得点の計算：各設問に対するご自身の回答の横にある数字を、以下の横に記入してください。数字を足して合計点を出してください。合計点は0から10までの間で。

2	1	1	2	2	8
1.の得点	+ 2.の得点	+ 3.の得点	+ 4.の得点	+ 5.の得点	= 合計点

合計点が4以上の場合、あなたの呼吸の問題は慢性閉塞性肺疾患 (COPD) が原因かもしれません。COPDは、しばしば慢性気管支炎や肺気腫とも呼ばれ、時間の経過とともにゆっくりと悪化する深刻な肺病気で、COPDは、治療により症状をコントロールすることはできません。記入し終 質問票を医師に見せてください。合計点が高いほどCOPDにかかっている可能性が高くなります。

① 各設問に対し、最もあてはまる回答のボックスひとつに☒をつけてください。

② それぞれの設問に対し、該当する回答の点数を記入してください。

③ 5つの設問の点数をすべて合計してください。

4点以上であればスパイロメトリーなどを実施し、確定診断へと進めてください。COPDと診断がついたら、患者さんに早期治療開始の重要性をお話いただき、治療を開始してください。